

彩の歳時記

令和二年 一月

初春^{今月}
氣淑風和
梅披鏡前之粉
蘭薰風後之香

「初春の令月にして氣淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き蘭は風後の香を薫らす」

天平二年(730)年正月、大宰府の筑紫歌壇の重鎮「大伴旅人」宅での新春「梅の宴」で詠まれた三十二首の序文。新年号『令和』の由来。

旧曆新春はちようど梅が見ごろ。大宰府(福岡)は大陸にも近く、文化的で気候も温暖で梅は初春を華やかに飾る花。万葉集編纂期の八世紀頃は中国から伝わった時期で、初期万葉集の花として、桜でなく「梅」が多く詠まれました。主要歌人・大伴旅人【665〜731】は、高官位の大納言ですが酒を讃(ほ)むるの歌・十三首詠んでおり、酒をこよなく愛した人物。令和初の正月、日本のお酒に杯を傾けながら、梅(初花)の蕾のふくらみに新しい年への期待を寄せたいものです。

一月の暦

睦月 親族・知人が集まり、親睦をはかる月。

睦月

一日 元旦 国民の祝日「元旦」の「旦」の下線は地平線・日は昇る太陽。初日の出を拝し、

門松で年神様を迎え、若水を汲んで供え、雑煮やおせちを食べ、初詣をする。

新年祝賀の儀 天皇皇后両陛下・皇族の方々が、三権の長、在日大使とその配偶者から

新年の祝賀を受けられる儀式。

二日 皇居一般参賀 宮殿東庭にて天皇皇后両陛下・皇族方が、国民から祝賀を受けられる。

第九十六回箱根駅伝(二日・三日) 大手町から箱根までの往路の区間、復路の区間の

217.9 kmで争われる。昨年の1・2・3位は東海・青山学院・東洋大学。今年は何?

六日 官公庁御用始め 1873(明治)年から、法律で定められた官公庁での新年最初の事務を行う日。

六日 小寒【二十四節気】節分までを「寒」といい、この日は「寒の入り」、『節分』までが『寒の内』

七日 七草 七草粥は邪気を払う七種の菜を食していた中国の「七日正月」に由来。

春の七草(芹・なずな・御形(ごぎょう)・はこべら・仏の座・すずな・すずしろ)が入った粥を食べ、一年の息災を願う。日本では平安時代に始まり江戸時代に定着。君がため春の野に出でて若菜摘むわが衣手に雪は降りつつ 光孝天皇

七草納め 門松や注連(しめ)飾りを取り払う。松払い・松送り(関西は一月十五日に行くところも)

十一日 鏡開き 年神様や仏に供えた鏡餅を下げ、食す。切るは切腹を連想させるので



望

十三日 歌会始 今年のお題は「望」。お題は天皇陛下が決められる。両陛下の御前で一般の詠進歌

十三日 成人の日 振袖は未婚女性の礼装で『万葉集』に、愛する人に向けて袖を振る歌が数多くある。振る行為は厄払いや神のご加護で安寧を祈願する意味も。華やか振袖姿は、正月の風物詩。

十七日 阪神淡路大震災の日 1995年のこの日、死者約6300人、30万人以上が被災。「防災とボランティアの日」として制定。神戸市で「1176CM」を開催。



二十日 大寒【二十四節気】一年中で最も寒い時。「寒仕込み」(凍り豆腐、酒、味噌など)を仕込む時期

一月の歌

男はつらいよ 詞 星野哲郎 曲 山本直純

お正月映画と言えば、1969年に第一作が封切られた「男はつらいよ」今年で50年。2019年12月27日に『男はつらいよ お帰り寅さん』が全国でロードショー。主題歌の歌唱を今年40周年を迎えた「サザンオールスターズ」の桑田佳祐が担当。監督・山田洋次は、桑田と渥美清は「心情において深く重なっているのでは」と前から思っていて依頼したと語る。寅さんの啖呵「それを言っちゃおしまいよ」は乱暴だけど、一線を越えず聞くに堪えない「ヘイトスピーチ」を否定しているように感じます。

俺がいたんじゃお嫁にや行けぬ わかっちゃいるんだ 妹よ 偉い兄貴になりたくて 奮闘努力の甲斐も無く 今日も涙の今日も涙の日が落ちる日



後略

